

富士のさと人通信

発行所

(独)国立青少年教育振興機構
国立中央青少年交流の家
電話：0550-89-2020
メール：fujinosato@niye.go.jp

「富士のさと 森のくらし TAXキャンプ」を開催

仕組みについて楽しく学び、選挙等を通して多くの人が協力して社会生活を営んでいることを自分事として捉えることを目的として実施した。

参加者は十三種類の自然体験活動を自由に選択し、それぞれの活動の達成具合に応じて独自の通貨「フジ」を獲得し、通貨を使用して買い物や道具を使った遊びを楽しんだ。また、通貨を獲得する過程において「つながりシステム」という税制を設け、電気代や水道代等は参加者全員から集めた税金で賄われているという仕組みにし、税について学

キャンプで使用した通貨「フジ」



交流の家では、十月十八日（土）～十九日（日）の一泊二日で小学五、六年生を対象に、「富士のさと 森のくらしTAXキャンプ」を開催した。本事業は、様々な自然体験活動を仕事と置き換え、お金の流れや、税金をはじめとした社会の

ぶ機会とした。

さらに、沼津税務署・御殿場市選挙管理委員会の協力のもと、キャンプで実際に体験した税や選挙の仕組みについて、実生活でどのような働きをしているかについて学んだ。

参加者からは「お金を貯めるのにどれだけ時



ミッションをクリアし「フジ」を獲得する参加者

間や体力が必要かわかった。これからは何のためにお金を使うかしっかりと考えたい」「税や選挙のことについてもっと知りたくなった」といった感想が寄せられた。

本事業は「(公)安藤食文化・スポーツ振興財団」からの支援金を受けて実施した。

交流の家の森で親子体験
地元高校生が案内役に

当所と探究学習等の連携・協力に関する協定を締結している静岡県立御殿場高等学校創造ビジネス科が主催し、交



高校生と木の伐採をする参加者

流の家を会場に、小学生とその保護者を対象とした「親子できこり体験」を、七月二十六日（土）に開催した。本イベントは、交流の家の指導のもと、生徒たちが、地元産木材「ごてんばっ木（こ）」の魅力を広く伝えることを目的としている。

生徒たちは、四月から月に一度、交流の家でのフィールドワークを重ねて準備を進め、当日は二四名の生徒がインストラクターとして二組三七名の親子に対して、木の伐採のサポートを行った。皆で高さ五メートルを超えるヒノキの伐採に挑戦し、最初は

生徒たちは、四月から月に一度、交流の家でのフィールドワークを重ねて準備を進め、当日は二四名の生徒がインストラクターとして二組三七名の親子に対して、木の伐採のサポートを行った。皆で高さ五メートルを超えるヒノキの伐採に挑戦し、最初は

次世代を担う高校生と地域の子供たちが自然を通じて触れ合い、共に学び合う貴重な一日となった。

【PR】

交流の家では、毎日公式「Instagram」で日々の情報を発信しています。ぜひフォローしてくだ

